

視 察 報 告 書

報告者氏名 おだぎり たかし

1 委員会名

総務委員会

2 期 日

令和5年11月6日（月）～11月8日（水）

3 視察地及び調査事項

(1) 福岡県北九州市

- ・マイナンバーを活用した「書かない窓口」について
- ・女性職員活用支援について

(2) 福岡県飯塚市

- ・イクボス推進事業について

(3) 福岡県福岡市

- ・LINEを活用した情報発信等について
- ・女性職員活用支援について

4 所感等

3市共通して、①職責職員の男女比や賃金の比較、生理休暇の状況を具体的に報告して頂き、今後の取り組みに活かそうとされる姿勢には、心からの敬意と、本市にいかせられるよう認識を深める視察となった。

②「女性活躍」や「イクボス」、「男性職員の育児休暇取得100%」等は、そもそも女性がその大半を務め、支えてきた家庭労働への尊重と敬意が希薄化していることに大変危惧を感じる。

女性への家事労働の負担集中を解消し、性「差別」への反省と是正、8時間労働で普通に暮らせる職場環境づくりという立場（働く者が、労働や家庭、人生においても謳歌できる環境）こそ必要だと考える。3市の様々な努力の結実が、一つ一つの「権利」や

「母体擁護」「職員やそのご家族の心身への配慮」等に実を結ぶことを期待している。また、本市でも「イクボス宣言」だけに目を奪われることなく、すべての職員とそのご家族が、人生や生活、仕事において健康で文化的な日々を送れる社会を実現する一つのツールとして「イクボス宣言」が積極的に活用されることを願い、引き続き活動したい。

■北九州市

・「書かない」窓口など、本市でも課毎の様々システムを統一化し、より効率の高いシステムを目指している最中であり、市民の利便性向上はもとより、業務担当者の実践的効率化をどういうスタンスで推進することが必要かを大いに深める機会となった。

同時に、業務の効率的システム化は、柔軟で温かみのある「行政運営」や、「自治」に基づく自治体運営と相反する場合もあることから、今後とも、各施策の「光と影」を複眼で重層的に議論し、尊重と深め合いを続けていくことが必要と考える。

・市民千人当たりの職員数は「7.79人」（本市の場合：H15年度7.7人、R4年度5.7人）という実態では、40代を中心に、女性職員が職責者に促せる「自己肯定感」が持てる経験と重層的サポート体制を構築するまでは困難さが生じると思われる。

■飯塚市

・「ワーク・ライフ・バランス」と言葉だけにせず、行政の本気度を示すうえで、「女性の労働状況に関する事業所調査（R3年5月）」の取り組みは大いに本市でも参考とすべきと考える。

・市民千人当たりの職員数は「6.83人」（本市の場合：H15年度7.7人、R4年度5.7人）という状況では、「育児休暇取得100%」は取得が目的化しかねないと思われる。

一方、「育児休暇」課内複数（2人以上）取得を保障するため、正規職員配置をR6年4月から実施する姿勢は本市でも実施に向けた計画づくりが必要と考える。

■福岡市

・LINEを活用した情報発信もさることながら、83万世帯への月2回の広報紙全戸配布の体制には大いに驚き、大都市の底力とネットワークのち密さは大いに本市で取り入れられるよう注力したい。

・市民千人当たりの職員数は「11人」（本市の場合：H15年度7.7人、R4年度5.7人）は、本市の2倍程度あるものの、人口増が激しい政令指定都市ならではの行政サービス上の厳しさは否めない。「育児休暇取得100%」や「イクボス」にとどまらず、生理休暇の取得大幅増やジェンダー平等に向けた先陣を切っていただきたいと願う。